

早稲田大学大学院教育学研究科  
博士学位審査論文

中等作文教育におけるインベンション指導の研究  
—発想・着想・構想指導の理論と実践—

Research and Practice: The Development of “Invention Writing”  
in Junior/Senior High School Students

2006

田 中 宏 幸

博士学位申請論文「中等作文教育におけるインベンション指導の研究」正誤表

下記の箇所に誤植がございます。ご訂正くださいますようお願い申し上げます。

田中 宏幸

頁・行	誤	正
23頁9行目	開いていくこともなる。	開いていくこと <u>に</u> なる。
37頁14行目	作文をするに先つて書くべき	作文をするに先 <u>立</u> つて書くべき
81頁18行目	「論説文・議論文」	「 <u>説明文</u> ・議論文」
144頁33行目	なお、大村が、このように	<u>  </u> なお、大村が、このように

## 目 次

序章 研究の課題・目的・方法・意義	1
第1節 本研究の課題	1
第2節 研究の目的	3
第3節 研究の方法と本論文の構成	5
第4節 研究の意義	7
第一部 中等作文教育課題としてのインベンションの発見	8
第1章 明治期におけるインベンション指導	9
第1節 範文模倣期におけるインベンション—明治前・中期	9
第2節 自由発表作文期におけるインベンション—明治後期	12
第2章 ジェナング修辞学理論の意義	18
第1節 ジェナングの略歴と業績	18
第2節 “THE WORKING PRINCIPLES OF RHETORIC” (1900) の内容	20
第3節 近代日本作文教育への影響	29
第3章 大正期・昭和前期におけるインベンション指導	32
第1節 芦田恵之助のインベンション指導	32
第2節 小澤忠造（日高実科高等女学校教諭）の場合	36
第3節 池田彌一郎（奈良県師範学校訓導）の場合	38
第4節 岡部嘉一（大阪府立市岡中学校教諭）の場合	40

第5節	林 均（東京高等師範学校國漢科）の場合	44
第6節	大正期・昭和前期におけるインベンション指導の到達点	47
第4章	五十嵐力のインベンション指導	49
第1節	五十嵐力の略歴と業績	49
第2節	五十嵐の修辞学及び作文教育に関する先行研究	50
第3節	『高等女子新作文』の特色	52
第4節	五十嵐力の発想・着想・構想指導の実際	55
第5節	五十嵐力に学ぶインベンション指導の方法	63
第5章	佐々政一のインベンション指導	64
第1節	佐々政一の業績と評価	64
第2節	『日本作文法』及び『中等作文講話』の構成と教育的配慮	65
第3節	作文課題の文種別特徴	68
第4節	佐々政一に学ぶインベンション指導の方法	73
第6章	金子彦二郎のインベンション指導	75
第1節	金子彦二郎の業績と評価	75
第2節	『現代女子作文』（初版本）の特徴	77
第3節	単元構成と「文話」の内容	78
第4節	課題の特徴と内容	80
第5節	「暗示的指導」の特徴	84
第6節	金子彦二郎に学ぶインベンション指導の方法	87

第二部 中等作文教育におけるインベンション指導の進展

88

第7章 昭和後期以降のインベンション指導理論史

89

第1節 「通じあい」としての作文指導

89

第2節 コンポジション理論の移入

91

第3節 文章心理学によるアイデア創出法の開発

92

第4節 「想の展開」の重視

93

第5節 発想を触発する条件の分析

95

第6節 創造性開発と発想法

96

第7節 模倣による思考パターンの習得

98

第8節 文種による文章表現過程の明確化と書き換え練習

99

第9節 文学的認識で見えぬものを見る目を育てる

101

第10節 リライトによる発想力・認識力の育成

101

第11節 創構指導の理論的・実験的研究

102

第12節 先行理論史のまとめ

106

第8章 昭和後期以降の実践から学ぶ知見

108

第1節 認識力を育てる発想・着想・構想指導

108

第2節 生活文を中心とした発想・着想・構想指導

112

第3節 創造的小論文を導く発想・着想・構想指導

115

第4節 「自己」に手がかりを求める発想・着想・構想指導

118

第5節 読み書き関連指導による発想・着想・構想指導

122	第6節 先行実践に学ぶインベンション指導の知見
125	
第9章	大村はまのインベンション指導
128	
第1節	題材を集める指導—「取材の手引き」を中心に
128	
第2節	手紙文・通信文におけるインベンション指導—「場の設定」を中心に
130	
第3節	記録・報告文におけるインベンション指導—「テーマ設定」を中心に
132	
第4節	意見文におけるインベンション指導—「文題による導き」を中心に
135	
第5節	創作文におけるインベンション指導
139	
第6節	処理段階における発想・構想指導—自己内省と立場の転換を中心に
140	
第7節	「個人文集」の指導—テーマ設定と課題提示の方法を中心に
141	
第8節	大村はまのインベンション指導の特徴
145	
第三部	インベンション指導の実践的提案
148	
第10章	「想」の形成条件—実践仮説の構築
148	
第1節	「作文授業づくり」の課題
148	
第2節	「想」の形成条件
149	
第11章	虚構の場を生かした発想・構想指導
152	
第1節	手紙文における虚構の場の活用—「恋文にお断りの返事を」の場合
152	
第2節	絵本を発想の契機とした物語文の創作—「ぼくを探しに」の場合
154	
第3節	絵本に取材した報道文の創作—「あらしのよるに」の場合
159	
第4節	詩や古典を活用した創作活動—「唐詩・現代詩・伊勢物語」の場合
162	

第12章 論理的文章表現における発想・構想指導	169
第1節 連想語彙と変形思考法—「フリーター論」の場合	169
第2節 教材と意見一覧による内的葛藤の誘発—「友情論」の場合	173
第3節 内的葛藤を誘発する教材の開発—「やさしさとは何か」の場合	178
第4節 対立意見の想定—「ネコの安楽死は是か非か」の場合	182
第13章 取材力・構想力・展開力を育てるリライト作文	188
第1節 範文の応用による発想・構想の指導—「柿の種」の場合	188
第2節 範文の応用による新題材の発見—「目玉焼の正しい食べ方」の場合	191
第3節 範文の応用による文章展開力の指導—「正しい風邪の引き方」の場合	194
第4節 聞き書きによる取材力・文章展開力の育成	196
第14章 インベンションを育てる作文指導法—実践的提案のまとめ	201
第1節 「書く場」の設定	201
第2節 「作文課題（テーマ）」の設定	202
第3節 「書くべき内容の発見」への支援	203
第4節 「文章全体を見通す力」の体得	204
第5節 「評価・処理」の改善	204
第15章 カリキュラム化の試み	207
終章 研究の総括	211
あとがき	223

注 記

- 【1】 『レトリックとコンポジションの百科事典』の原文————— (1)
- 【2】 John Franklin Genung “THE WORKING PRINCIPLES OF RETHORIC” の目次————— (2)
- 【3】 ジェナング『修辞学の実用的原理』の序章（注を除く英文全文と日本語訳）—— (7)
- 【4】 金子彦二郎『現代女子作文』初版（大正14年1月）単元名及び例文題一覧————— (15)
- 【5】 金子彦二郎『現代女子作文』修正再版（昭和5年1月）単元名及び例文題一覧—— (21)
- 【6】 芥川龍之介「文ちゃん」————— (27)
- 【7】 「唐詩」（「江雪」「黄鶴楼送孟浩然之広陵」「送元二使安西」「月夜」）—— (28)
- 【8】 右遠俊郎「人間不信にたどりつくまで」————— (28)
- 【9】 灰谷健次郎「変わるということ」————— (29)
- 【10】 「ネコの安楽死」（朝日新聞1990年11月16日）————— (30)
- 【11】 「ネコたちの運命」（朝日新聞1990年12月12日）————— (30)
- 【12】 寺田寅彦「柿の種」————— (31)
- 【13】 伊丹十三「目玉焼の正しい食べ方」————— (32)
- 【14】 別役実「正しい風邪のひき方」————— (32)
- 引用・参考文献一覧————— (34)
- 引用・参考論文一覧————— (51)



